



平成 25 年 8 月 1 日 発行

第 9 号

京田辺市観光ボランティア

ガイド協会 広報部編集

☎ 0774-68-2810

新任代表の挨拶と平成 25 年度事業計画について

本年 4 月、2 年間代表として活躍されました小川祐輔氏が退任され、私が引き継ぐことになりました。京田辺市観光ボランティアガイド協会が発足して 7 年目になりますが、この間 3 人の代表の指導のもとで、現在の会に発展してきました。私も微力ながら前任者に恥じないように会の発展に尽くしたいと考えております。



さて本年の自主事業は、原則的には昨年の事業を踏襲するものですが、新規の事業として、京田辺市の特産である玉露に特化したウォーク・市内の古木・銘木・花を巡るウォーク・古事記編纂 1300 年記念事業として京都生涯学習講座への投稿などを計画しております。研修部事業では、外部講師による研修会は市民参画型とし、市民の皆さまにも受講していただく事になりました。広報事業として、広報誌の発刊はもとより、PR の取り組みの強化（京田辺市の広報、各種新聞への掲載等）を積極的に行う等、市民の皆さまが参加しやすい団体を目指してまいります。行事、研修会等に気軽にご参加ください。

（代表 藤野隆司）

ボランティアガイド日誌

4月2日 観音寺・壽寶寺他をガイド

曇り時々小雨の中、大津市の堅田歴史同好会 17 名のガイドを行いました。午後 2 時にマイクロバスで普賢寺



ふれあいの駅に到着され 菜の花と桜の観音寺 た参加者は 60 から 70 才代の女性が大半で、年に数回バスで社寺の観光に回っておられるとのこと。早速、観音寺に案内。道筋の桜は七分咲き、菜の花はほぼ満開で、その見事な美しさを堪能されていました。大御堂で住職から説明があり、国宝の十一面観音立像の優美なお姿には感嘆の声があがりました。次は同志社大学構内の筒城宮址に案内。学内は新生へへの部活動誘で若者の活気に満ちあふれていました。

次に、壽寶寺で住職の説明と十一面千手千眼

観音立像をご覧いただき、山本の駅をガイドしました。最後の宝泉寺では、本堂に入り本尊の十一面観音を拝観し説明の後、重文の十三重石塔に案内しました。予定の 4 時 30 分になり帰路につかれるバスを見送りました。（西村）

4月5日 甘南備山をガイド

日本セカンドライフ協会の川崎さん一行のガイドは昨年につき 2 回目となり、今回は男性 4 名、女性 3 名が独自で壽寶寺と観音寺を



甘南備山からの眺望

拝観。「宇を茂」で昼食されたあと、甘南備山から JR 京田辺駅までをガイドしました。

一行は健脚揃いで甘南備山登山口から三角点（雌山の頂上 201.6m）までを一気に登られま

した。道中、大阪・京都・奈良から見た京田辺の位置付けや、第26代継体天皇をはじめとした歴史上の関わりなどの説明をしつつ頂上を目指しました。甘南備山は京都市内の船岡山から真南に位置し、頂上付近にある白石が太陽光の反射で平安京建設の目印となり、朱雀大路が決められたとの言伝えを説明しました。下山途中、雨乞いの井戸と吉やんの滝を見ながら下山しました。薪神社では月読神が仮の姿で現れたと伝わる「石」と「能楽発祥の碑」の説明をしました。一休寺で一休み。甘南備寺で薬師如来坐像と耳石の解説をして、棚倉孫神社の地元野菜で飾られた瑞饋神輿と絵馬を観賞。その後、JR京田辺駅まで案内して帰路についていただきました。(村上)

4月10日 普賢寺から同志社へ

京都退職教職員の会の10名を三山木駅～水取～藤林普山生家～ふれあいの駅～大御堂観音寺～近衛基通墓～同志社大(下司古墳・筒城宮跡)～同志社女子大(昼食)～天神山遺跡～JR同志社前駅にご案内しました。さすがに元先生方だけあって濃い内容です。

昔、苦手だった先生を思い出して、緊張しながら一行をお迎えし、代表の久保先生にご挨拶。先生は藤林普山の研究をされているとの事で著書『藤林普山之傳』を頂戴しました。

9時29分発のバスで出発。まず水取の説明。藤林普山生家前では久保先生の詳細な説明を伺いました。観音寺では御住職の丁寧な説明を拝聴し、此处で菜の花をバックに全員で記念撮影。

次に、今年で没後780年の近衛基通の墓に案内したあと、同志社では下司古墳・筒城宮跡・博物館を訪れ、最後に、食堂に入りゆっくりミーティングを行いしました。そして、天神山遺跡を案内して同志社前駅でお見送りをしました。先生方にパワーをもらった一日でした。(土居貞)

4月21日 佐川田喜六没後370年行事

武士であるとともに歌人・茶人・書家でもあった佐川田喜六昌俊の没後370年の記念行事が酬恩庵一休寺および黙々寺跡で行われました。

一休寺住職による法要と説話に引き続き、黙々寺跡で佐川田一族の墓石等の説明がありました。

その後一休寺の「江庵」にて堺市博物館学芸員 矢内一磨氏による「佐川田喜六家と薪・酬恩庵の歴史」と題して1時間半の講演。質疑応答もあり有意義な時間でした。

講演のあとは、方丈に移り住職から一休寺の詳しい説明があり、次に分散して我々観光ボランティアガイドのメンバーで浴室・三本杉・本堂・一休和尚の廟所・鐘楼等を説明しました。参加者は86名でした。(柳生)

4月29日 JRふれあいハイク春号

半月前の下見の時点で参加申込が80名を超え8班集体を取りましたが、当日には151名の参加があり



朱智神社の説明に聞入る参加者

急遽9班集体でのガイドになりました。

当日は天候にも恵まれ、一部の班に遅れが出たもののそれ以外の班はほぼ時間通りに、無事に案内出来ました。

もう見頃を過ぎたのではと心配した牡丹園も満開で、距離が長く途中でリタイアされた方も多少ありましたが、春の陽気に誘われて新緑のハイキングを楽しんでいただきました。

意外に市内在住の方が多く、我が町京田辺を知ろうとしておられる方が多いと分かりました。来年以降もこの企画を続けていく必要を感じながら笑顔の参加者を見送りました。(園上)

4月30日(火) 天王の朱智神社と牡丹園

京田辺シルバー人材センターの同好会「遊歩くらぶ」のメンバー20人とハイキング。



前夜半から降り出した雨のため、予定を変更して高船方面と干鉾山へは行かず、天王の牡丹園を中心に歩く事になりました。

午前11時に新田辺駅バスターミナルに集合して天王行きのバスに乗り終点の天王で下車。

小雨の降る中を朱智神社へと向いました。神社の石段下で「鳥居について」の話を少々し、参拝をしてから朱智神社の説明をしました。境内で昼食を済ませ、牡丹園に向いました。

牡丹園では当主の辻尾さんが出迎えて下さり、歴史や苦労話を聞かせていただきました。覚悟はしていたものの、あいにくの雨で園内には入れず残念でしたが、牡丹の花は満開に咲き誇り入口から見る新緑の丘に咲く皐月や躑躅がとても美しく、一行はその景色にしばらく見とれていました。牡丹をバックに記念写真を撮って牡丹園を後にしました。

その後、天王の共同墓地にある「一石多尊仏」を見て「ふれあい道の駅」で休憩と買い物をして観音寺へ。この頃には雨は止み傘もいらなくなっていました。酒屋神社を案内したのち3時半頃に解散しました。(有竹)

5月1日 小学生を大住車塚古墳に案内

桃園小学校の6学年100名の児童に、大住地区にある「大住車塚古墳」で古墳について説明を行いました。小学6年生の一学期で古墳の授業があり、地元にある古墳を見学し、古墳についての知識や興味を得る事を目的に、授業の延長として企画されガイドをしました。

普段は身近で見ることがない古墳に登ったり、

構造や歴史についてパネルにて説明をしました。大住車塚古墳は前方後方墳というつくりで、古墳の周囲は長方形の周濠があり、近くに同型の南塚古墳と並んでいるのは全国的にも珍しい例であることや、円墳の姫塚古墳の説明に児童は熱心にメモを取りながら勉強していました。又、いろいろある古墳の形や、日本で一番大きい古墳や一番古い古墳の説明を聞いて興味が沸いたようでした。

その他に、大住車塚古墳に伝わる昔話には児童達は驚いた様子で聞き入っていました。

桃園小学校では、来年も企画したいとお話を頂きました。

他の学校でも、京田辺市の歴史・文化等を授業や企画に取り入れる機会と、地域を知るきっかけを作っていただきたいと思います。

(藤田)



今後のJRふれあいハイク夏号のご案内

平成25年9月23日(月・祝)

『初秋の甘奈備山から平安京を望む』

JR大住駅9:30⇒虚空蔵谷⇒甘奈備山頂

⇒一休寺⇒JR京田辺駅14:00頃

歩程7Km 参加費200円

*京田辺旬彩弁当(600円)をご希望の方は予約時にお申し込みください。

*全コースを京田辺市観光ボランティアガイドが案内します。多数のご参加をお待ちしています。



『シリーズ：古事記編纂 1300 年記念、 京田辺市の古事記を歩く』

2012 年は古事記編纂 1300 年にあたります。京田辺市観光ボランティアガイド協会では、これを記念して、古事記・日本書紀に記載された神々や天皇が登場する神社、名所旧蹟を巡るツアーを 3 回にわけて実施しました。

『第一回目：国造りの神々の伝説、応神天皇の酒、 仁徳天皇の蚕、継体天皇の宮伝説を訪ねて』

平成 24 年 11 月 10 日、第一回目のウォークを実施しました。JR三山木駅を出発し、酒の神・



佐牙神社本殿

佐牙彌豆男神、佐牙彌豆女神が祀られる佐牙神社を参拝しました。記紀にはこの二人の祭神の名は出てきませんが、「佐牙神社本源記」には「仁徳天皇の頃、唐国より酒を作る人・曾々保利を筒木の里に居住せしめ」とあり、日本書紀には「酒を醸むことを知れる人・須々許理が応神天皇に大御酒を献上した」（酒屋神社に掲示）とあります。（古事記中つ巻・応仁天皇の項）。この二人の酒造りは同一人物である（鄭大聲氏説）といわれています。又「佐牙」の「さが」は米を噛むから由来し、発酵するという意味があります。社殿は美しい朱塗りの春日作りで二つの棟が並んでいます。

次に山崎神社を参拝しました。この神社は、かつて古墳だった上に神社を建てたもので、祭神の大友皇子は天智天皇の皇子で壬申の乱により山前で死んだとされています。また一説によると継体天皇の第八皇子・菟皇子を祭神とし、明治初期まで皇子神社とも呼ばれていました。

またこの神社の境内から見える木津川の西側に（現在の馬坂川付近）、建波瀬安彦の反逆（古事記中つ巻・崇神天皇の項）に関わる「加波羅伝説」の石碑があり、古事記には今の樟葉、祝園、木津川の名の由来が語られています。

山崎神社を後に継体天皇ゆかりの地「越前」を通過し、普賢寺川に向います。途中、ヨーロッパ風の景色を映し出す同志社の全景を右手に見ながら多々羅に入ります。

多々羅には日本最初外国蚕飼育旧蹟碑があります。この地方には遠い昔、豪族奴理能美が住んでおり、仁徳天皇の妃「磐之比売の嫉妬伝説」が登場する土地で、仁徳天皇が三色に変わる怪しき虫（蚕）を見るため（実は磐之比売に会うため）に普賢寺川を遡ってこられたとあります。（古事記下つ巻・仁徳天皇の項）

さらに一行は普賢寺川を上り観音寺に到着。京田辺市唯一の十一面観音菩薩を拝し住職から寺の起源や十一面観音立像のお話を聞かしていただきました。

その後、酒屋神社・筒城宮跡などを回り、古事記・日本書紀に登場する神々・天皇・豪族などの話を中心にガイドを行いました。ウォークの目的が一般的でない事柄にも関わらず予想以上の参加がありました。



酒屋神社本殿

次回の 2 回目・3 回目も必ず参加しますと約束され私達も活力を得ました。（藤野）

京田辺市の観光は

観光ボランティアガイドをご利用ください。

- * 1 グループ 15 名以下とし、1 グループにつきガイド 1 名が案内します。
- * 諸経費として 1,000 円を頂きます。
- * お問い合わせは観光案内所まで。

Tel 0774-68-2810

Fax 0774-68-2817

Email: info@kyotanabe

